

保護者の皆様

千葉県立稲浜小学校
校長 平川 紀子

令和5年度 学校評価アンケート(前期)まとめについて

保護者の皆様には、ご多用の中、学校評価アンケートへのご協力をいただきありがとうございました。集計結果がまとまりましたので、ご報告いたします。結果は、今後の学校運営の参考とさせていただきます。なお、回答数は183(児童数217)で、回答率は84.3%でした。

児童用の質問内容	児童全体	低学年	中学年	高学年	保護者	教職員
「たのしく(知)」						
1 学校での学習に、一生けんめい取り組んでいますか。	3.6	3.7	3.8	3.5	3.3	3.5
2 自分の考えや思ったことを、進んで伝え合ったりノートに書いたりしていますか。	3.3	3.2	3.3	3.2	3.2	3.3
3 ギガタブやコンピュータを使って、楽しく学習に取り組んでいますか。	3.5	3.7	3.8	3.5	3.1	3.1
4 家庭で毎日進んで学習をしていますか。	3.3	3.6	3.4	3.2	2.9	3.1
「なかよく(徳)」						
5 友達や家族、地域の方などに進んであいさつをしていますか。	3.4	3.5	3.7	3.3	3.2	3.3
6 いじめをせず、友達に優しくしたり友達と仲良くしたりしていますか。	3.7	3.7	3.9	3.7	3.4	3.5
7 みんなが気持ちよく生活できるよう、進んで考えたり行動したりしていますか。	3.4	3.5	3.5	3.2	3.4	3.4
「げんきよく(体)」						
8 進んで運動をしたり外遊びをしたりしていますか。	3.3	3.6	3.3	2.8	3.3	3.2
9 好き嫌いをせず、栄養バランスに気をつけて、食事をしていますか。	3.4	3.4	3.6	3.3	3.1	3.5
10 心と体が元気に過ごせるよう、生活の仕方に気を付けていますか。	3.5	3.7	3.7	3.2	3.4	3.4
「開かれた学校」						
11 学校だよりや学年だより、学校HP等によって、学校の教育活動を積極的に発信していると思いますか。					3.4	3.2
12 いじめ・不登校の未然防止や早期発見、早期対応などに適切に取り組んでいると思いますか。					3.1	3.5
13 児童が安全・安心に生活できるよう、安全対策に努めていると思いますか。 (交通安全・防災・不審者・性被害など)					3.4	3.4
14 連絡帳や電話連絡などを通して、適切に家庭と連携していると思いますか。					3.1	3.5

今回の学校評価アンケートは、児童の自己評価項目を基本に、保護者用は児童の成長の見取りを、教職員用は自身の指導の振り返りをそれぞれの項目として行いました。以下の考察をもとに、子どもたちがさらに「なかよく」「たのしく」「げんきよく」学校生活を送れるよう、全教職員で努めてまいります。今後ともご理解ご協力をよろしくお願いいたします。

「たのしく(知)」について

児童の自己評価は全体的に高くなっています。〈①学習意欲〉〈③ICTの活用〉は特に数値が高く、感染症対策が和らいだことで、教師や友達と関わり合いながら学びを深めることができていること、ギガタブ等を活用した学習の仕方が身に付きつつあることがうかがえます。教師からの学習支援も高い自己評価となっていますが、引き続き、児童が「できた」「わかった」と実感できる授業や自分の思いを豊かに表現できる授業が増えるよう、指導法の改善を図っていきます。

〈④家庭学習〉については、昨年度と比べるとやや改善傾向となりましたが、保護者の見立ては2.9ポイントであり、十分ではないことがうかがえます。学校では自主学習の取組を奨励しており、調べ学習の成果や日記、計算や漢字の練習などに主体的に取り組む児童が増えてきていることを感じます。家庭学習は「学年×10分」が目安と言われますが、自ら主体的に学ぼうとする姿勢を育むための大切な時間です。学校でも取組への呼びかけを続けていきますので、ご家庭でも引き続き、習慣化に向けたお声がけをよろしくお願いいたします。

「なかよく(徳)」について

この項目も児童の自己評価が非常に高く、特に〈⑥思いやり〉が全項目中一番良い評価となっていることは、学校として大変うれしいことです。コロナ禍が明け、制限なく学校生活が送れるようになり、子どもたちの元気な声と笑顔が増えてきています。今後も、挨拶などのマナーの大切さについて子どもたちが意識できるようにしたり、学級活動やふれあい活動、委員会活動などの他者と協力して活動する場を充実させたりすることで、コミュニケーション能力の育成を図っていきます。

「げんきよく(体)」について

上学年になるにつれてやや数値が下がっていることが課題として挙げられます。コロナ禍による体力の低下が問題となる中、運動の機会を確保することが求められています。体育の学習だけでなく、学級レクを積極的に行ったり全校で運動に取り組む「〇〇週間」などを企画したりすることで運動に親しむ時間を意図的に作り、心身の調和のとれた成長を促していきます。また、養護教諭や主任栄養士、スクールカウンセラーなど、教員の専門性を生かしながら子どもたちの心と体の健康を支られるよう、支援に努めていきます。

「開かれた学校」について

おおむね良い評価となっていますが、保護者の方と教職員の受け止めにはやや差があると言えます。引き続き、学校での取組をお知らせする機会を工夫し、保護者の皆様とさらに連携しながら児童の成長を見守っていきけるよう工夫していきます。